

平成 30 年 4 月 2 日(月)15:30～16:30

新任教員 FD 研修

「信州大学で充実した教育・研究生活を送っていただくために」

<本日のプログラム>

1. 信州大学の教育について

理事(教学担当)・高等教育研究センター長 平野 吉直

2. 高等教育研究センターによる教育・研究のサポート

2-1. 高等教育研究センターの紹介(副センター長 加藤 鉦三)

研究支援と教育支援

教学関連の第三期中期計画

2-2. 各担当紹介(センター専任教員 李 敏・古里 由香里・矢部 正之・加藤 善子)

※配付資料一覧は裏面にあります。

<配布資料リスト>

●1つ目のポケット

- ◆プログラム
- ◆高等教育研究センターのあらまし/FDのご案内

●2つ目のポケット

- ◆資料 No.1 高等教育研究センター教員の職掌のご紹介
- ◆高等教育研究センターNews Letter

●3つ目のポケット

- ◆資料 No.2 学生による授業アンケートの全学共通項目 / 教員による授業アンケート
- ◆資料 No.3 シラバス作成及び今後のシラバス点検に関する説明
- ◆資料 No.4 「学習時間調査 2016 年(信州大学)」報告書

●4つ目のポケット

- ◆資料 No.5 国立大学法人信州大学教員業績評価・給与査定制度(全学教育機構基準)抜粋
【平成 29 年度参考】

●5つ目のポケット

- ◆4月16日(月)新任教員向け eALPS 研修会について(通知)

●6つ目のポケット

- ◆アンケート

高等教育研究センターのご紹介



副センター長 加藤 鉦三

■当センターがやりたいこと

個々の授業で『学びの手ごたえ、学びの実感』

→ 個々の授業で「やればできる」を体験

→ 新しい環境でも「やればできる」と思える

→ 「信大の卒業生は『自分はやればできる』ということを知っている」

文科省が何と言おうが、これができていれば問題なし

■当センターがやりたいことを実現するために

「信大の卒業生は使える」

これを実現するためには、学生ががんばって勉強できるよう、先生方にいろんな
お願いをしなければならない

↑

センターが先生方の**信用**を得なければならない

■研究支援

・ 科研費申請書の書き方支援

通る書き方、落ちる書き方があります (審査員談)

・ 教育実践をセンター員と共同研究に

センター員とシラバスを検討, 実践したことを発表して業績に。研究費支援も検討したい。

■教育支援

・ FD 活動

「学びの手ごたえ、学びの実感」を大切にする授業デザインを中心に

・ eLearning の活用

・ 学生調査データのフィードバック

・ 教育方法や学生との接し方などのワークショップ

■教学関連の中期計画

①個々の授業で『学びの手ごたえ、学びの実感』

⇒ ②「信大の卒業生は『自分はやればできる』ということを知っている」

①を基盤に、②に収斂するように舵取り

計画達成のインフラは、先生方の「やってみたら効果があった／達成感があった」

■ポリシー

・ 学生の満足感なくして教育効果なし

・ **教員の満足感**なくして**学生の満足感**なし

学生の満足感は、「(先生が教えた、ではなく、自分が) 授業でやった、そしてできた」の成功体験から

↑

そういう授業デザインをお手伝いする

李敏の自己紹介

李 敏（り・びん）

名前は**李 敏（り・びん）**ですが、この名前で信大で検索するときには、ヒットしない可能性が大きいです。

というのは、信大における登録名がLI MIN ですから。

ただし、日常生活では、いつも「鄭さん」（夫の名字）、「逸馨さんのお母さん」と呼ばれています。

日本に来て、思わず夫婦別姓のありがたさを感じさせられる経験です。

先生方からは、**李 敏**と呼んでいただければ嬉しいです。

中国蘇州の出身です。蘇州は、鹿児島と同じぐらいの緯度にあるものの、湿気が強いため、冬は寒さが体の芯まで染み込みます。ですので、信州のような「素直」な寒さがずっと好きです。

専門は教育社会学、高等教育学と比較教育です。

具体的には大卒者、大学院修了者のキャリアパス、大学院教育、留学生などの高等教育の国際化などの研究をしております。

信大では、大学院教育と**学生調査**を担当しておりますが、

学生調査を通して、

信大・あなたの学部にどのような学生がいますか。

学生がどのように勉強しますか、どのように大学生活を送りますか。

教員としてどのように学生に接しますか。

等々

のを知ることができます。



恐らく、先生方が何となくイメージする学生像が多いでしょうが、調査のデータで学生の特徴と問題を具体化することによって、先生方がより効率的に日々の教育に取り組むことに役立つことができれば、なによりも嬉しいです。今後とも、よろしくお願ひし申し上げます。

所属：高等教育研究センター 助教

名前：古里由香里

連絡先：furusato@shinshu-u.ac.jp 内線(7335)



□仕事について

- ・専門は社会学で、特に統計学を用いた計量分析を使って
 - ・社会格差と不平等（職業、社会関係資本について）を、研究しています
- ・高等教育研究センターでは、これらを用いて
 - ・「計量的測定」と統計学を用いた「データ分析」を行っております
 - = 「学生データの収集」と「そのデータの整理・分析・結果の提供」が仕事です
- ・統計学って、確実に当たるものなのか？何かを予測するのか？
 - ・と、よく言われますが、残念ながらそこまで魔法の手段ではありません
 - ・確率論をベースに、「AだとBになる可能性が非常に高い」という全体的な傾向を示すだけ
 - ・だから必ずそうなるわけではない、例外もある
 - 先生方が学生を直接「見て」、話を「聞いて」、「指導」する、ことは不可欠。
- ・ですが！そのお手伝いをすることが可能です
 - ・個別の実体験をもとにして全体を把握することは大変な労力
 - ⇒この部分をIR（Institutional Research）を活用して、簡略化
 - ・全体的なデータから学生のこと／授業のこと／大学のことを考える材料に
 - ex. 学生による授業アンケートと教員による授業アンケート
- ・具体的には、
 - どういう学生がサポートを必要とするか、
 - どのような指導・支援が成績（GPA）をあげるか、
 - どうしたら卒業するときに、達成感や自信をもって、社会に出られるか、などこれにより、（経験だけでなくデータによる）全体傾向をふまえた個別指導、に簡略化
- ・なので、調査ご協力のほど、お願いします！
 - ・これらの基礎をなすのは、先生方にもご協力いただく各種学生調査です
 - ・ご負担だとは思いますが、その結果は最終的には先生方にも還元されます
- ・また、学生や授業などデータ分析のご相談や共同研究も歓迎しております。
お気軽にぜひお問い合わせ、または機構4階南の高等教育研究センターまで。

矢部 正之 (YABE, Masayuki) とは、何者？



- ⇒ 元々の専門は、原子核物理 (核反応理論)
- ⇒ 医学部にもいました (保健科学と物理学・人間工学)
- ⇒ 高等教育での専門分野は、高等教育における ICT (情報通信技術) の活用

このような経験から、現在の研究課題・関心事は、次のようなことです。興味のある方は、いつでも声をかけてください。(メールは、yabe@shinshu-u.ac.jp)

★学修支援システム【e-Learning センターと共に】

- ⇔ LMS (学習管理システム) や電子ポートフォリオの活用とその効果
- ⇔ モバイル (携帯・スマートフォンやタブレット) を利用した双方向性促進
- ⇔ 画像 (動画) の活用 (遠隔授業, e-Learning, 反転授業)

★教育ビッグデータ (評価・分析とそれに基づく施策提言)

- ⇔ 学修支援システムからのデータ収集
- ⇔ IR (Institutional Research) への活用

★地域との連携【高等教育コンソーシアム信州と共に】

- ⇔ 大学間連携の推進 (教育・人材育成, 地方創生)



**利用可能な様々な資源を効果的に利用し
教育に活かす！**

私の専門領域は、**初年次教育**です。

全学のFD（特にアクティブ・ラーニング推進や、学生を勉強させる授業デザインなどのFDとコンサルテーション）、信大版の初年次セミナー「**大学生基礎力ゼミ**」の**運営と支援**、**学習支援プログラムの体制構築**（現在は主にライティング支援）、の3つが主な業務です。

…そして会議にたくさん出ています。こんなに毎日何時間も座っていたら、○になってしまうのではないかとマジで心配した時期がありました（笑）。

初年次教育は、

みんなでやろう！

励ましあって元気にやろう！

知恵を出し合ってやろう！

がキーコンセプトです。学生のやる気が最も強い入学直後に、学生と正面から向き合って学生の努力と能力を引き出せる、とてもやりがいのある仕事です。仲間が多いとはまだまだ言えませんが、みんなががんばっています。先生方におかれましても、

学生にもうすこしがんばって勉強してほしい！

授業の効果を下げずに、授業準備に使っている時間を研究（や家族サービス）にまわしたい！

学生同士で学びあえるような課題をつくりたい！

でもレポートは（コピペせずに）一人で真面目にとりくんでほしい！

そして・・・教育法や教育改善についての論文を発表したい！

といったご要望がございましたら、お気軽にお声かけください。先生のティーチング・スタイルを聞かせていただきながら、無理のないソリューションをご提案させていただきます。先生方の研究・教育生活のパートナーとして、末永くお付き合いください。



神戸市出身／お笑いではツッコミ担当、でも余裕で天然ボケです。／阪神タイガースファンですが、巨人ファンの先生にもFDしに行きますよ！／歴史好き。大河ドラマもフィクションとして楽しんでいます。／草間彌生ファン。数か月に1度は松本市美術館でエネルギーをチャージします。現在展覧会中ですね！／好きな作家は、笠井潔と大江健三郎と三島由紀夫。／月に1度は海を見に行くのが楽しみ。／どこにでも歩いて行くためか、町中での目撃情報多数。

平成29年6月27日

各学部（機構）長 殿

理事（教務）

平野吉直（公印省略）

平成29年度学生による授業アンケートについて

平成27年8月19日に開催された第148回教育研究評議会で報告したとおり、平成28年度より「授業改善アンケート」から「授業アンケート」に名称変更され、下記のとおり全学共通項目を入れていただくことになっております。実施方法、データの収集方法については、平成29年度につきましても各部局でこれまでどおり実施していただき、平成30年度以降については今後教務委員会にて検討する予定です。

なお、実施報告については、別紙によりそれぞれの提出期限までに小職宛（提出先：下記事務担当者）へご報告をお願いいたします。併せて、アンケート用紙（調査項目）及び生データについても、ご提供いただきますようお願いいたします。

記

1. 必修・選択の別を記入して下さい。
 1. 必修 2. 選択
 2. この授業が掲げた目標に、あなたは到達しましたか。
 1. 強くそう思う 2. そう思う 3. どちらでもない 4. そう思わない 5. 全くそう思わない
 3. 学習を進める上で、シラバスは役に立ちましたか。
 1. 強くそう思う 2. そう思う 3. どちらでもない 4. そう思わない 5. 全くそう思わない
 4. 内容を理解する上で適切な授業外学習が課されましたか。
 1. 強くそう思う 2. そう思う 3. どちらでもない 4. そう思わない 5. 全くそう思わない
 5. この授業のために、あなたは一週間あたりどのくらい授業外で学習しましたか。
 1. 30分未満 2. 30分以上1時間未満 3. 1時間以上2時間未満 4. 2時間以上3時間未満 5. 3時間以上
 6. この授業に対するあなたの態度は良かったですか（欠席をしない、課題等を期限内に提出する、私語・居眠りをしない、質問をするなど、積極的に受講しましたか）。
 1. 強くそう思う 2. そう思う 3. どちらでもない 4. そう思わない 5. 全くそう思わない
 7. あなたは、この授業の一連の経験を通して、達成感を得ましたか。
 1. 強くそう思う 2. そう思う 3. どちらでもない 4. そう思わない 5. 全くそう思わない
- 自由記述
8. この授業を受けて、あなたができるようになったことや学んだことを書いてください。
 9. この授業を受けて、あなたにとってもっとも価値があったもの・ことを書いてください。

事務担当：

学務部学務課教務グループ 遠藤・峰岸

内線：811-7165

Mail：campus-eie@shinshu-u.ac.jp

教員による授業アンケート項目

【記入いただきたい基本情報】

「開講学部名」、「登録コード（シラバスに記載のコード）」、「授業名」、「教員名」、「単独開講か複数教員による開講か」、「授業形態（講義・演習・実習等の種別）」

- この授業が掲げた目標に、受講生は到達したと思いますか。
 - 強くそう思う
 - そう思う
 - どちらでもない
 - そう思わない
 - 全くそう思わない
- 受講生の主体的な学修を促すことに配慮して、シラバスを作成しましたか。
 - 強くそう思う
 - そう思う
 - どちらでもない
 - そう思わない
 - 全くそう思わない
- 受講生が授業内容を理解するため、授業外学習をどれくらい課しましたか。
 - 授業外学習をほぼ毎回課した
 - 授業外学習を頻繁に課した
 - 授業外学習を時々課した
 - 授業外学習をあまり課さなかった
 - 授業外学習を課さなかった
 - この授業では授業外学習を要しない
- この授業をふりかえって（授業中の質疑応答、提出物の内容、試験の結果等）、課した授業外学習は学生の理解や知識の定着を促したと思いますか。
 - かなり促した
 - ある程度促した
 - あまり促さなかった
 - 促さなかった
 - 分からない
 - この授業では授業外学習を要しない
- この授業のために、受講生は平均して一週間あたりどのくらい授業外で学習していたと思いますか。
 - 30分未満
 - 30分以上1時間未満
 - 1時間以上2時間未満
 - 2時間以上3時間未満
 - 3時間以上
- この授業に対する受講生の態度は良かったですか（欠席をしない、課題等を期限内に提出する、私語・居眠りをしない、質問をするなど、積極的に受講しましたか）。
 - 強くそう思う
 - そう思う
 - どちらでもない
 - そう思わない
 - 全くそう思わない
- この授業を担当することで、教員として達成感を得ましたか。
 - 強くそう思う
 - そう思う
 - どちらでもない
 - そう思わない
 - 全くそう思わない
- この授業では、授業全体に対してどのくらいの割合でアクティブ・ラーニングを実施しましたか。アクティブ・ラーニングにあてた授業時間の割合をご記入ください。

※講義科目のみこれに回答してください。演習・実習では回答は必要ありません。

※どういう活動がアクティブ・ラーニングと言えるのかについては、冒頭のテキストボックスの最後の部分をご参照ください。

この授業では、授業時間のおよそ %をアクティブ・ラーニングにあてた。
- この授業をふりかえって（授業中の質疑応答、提出物の内容、試験の結果等）、この授業で行ったアクティブ・ラーニングは、受講生の理解や知識の定着や授業への参加を促したと思いますか。
 - かなり促した
 - ある程度促した
 - あまり促さなかった
 - 促さなかった
 - 分からない
 - この授業では受講生が活動するアクティブ・ラーニングは適さない

自由記述

・この授業を通して、あなたにとってもっとも価値があったと考えられるもの・ことを書いてください。（受講生にとってもっとも価値があったと考えられるものも差し支えありません）

シラバス作成及び今後のシラバス点検に関する説明

加藤善子・加藤鉦三（高等教育研究センター）

4月2日（月）

【全体構想】

「学生が自己効力感を持って卒業していく」ことに全てを収斂させる

そういう社会人はとても強い → 信州大学の教育はとても強い

・シラバスガイドライン抜粋

②授業が担う大学並びに学部・学科等の『学位授与の方針』の項目と、授業の達成目標

授業の達成目標は、この授業が担う『学位授与の方針』の項目をこの授業の言葉で言い換えたものとし、(知識面, スキル面, 態度面の組み合わせで、またはいずれかの面で)「○○ができるようになる」という形を標準とする。

③成績評価の方法

受講者が②の達成目標に到達するために通っていく過程(課題や小試験等)と、到達したことを示すエビデンス(最終レポートや期末試験等)のそれぞれの内容と配点を記述する。

④成績評価の基準

この項では、「何ができていれば、授業の達成目標の水準から見て『卓越している』／『かなり上にある』／『やや上にある』／『その水準にある』』と言えるのかを記述する。

・授業アンケート共通項目

2. この授業が掲げた目標に、あなたは到達しましたか。

1. 強くそう思う 2. そう思う 3. どちらでもない 4. そう思わない 5. 全くそう思わない

7. あなたは、この授業の一連の経験を通して、達成感を得ましたか。

1. 強くそう思う 2. そう思う 3. どちらでもない 4. そう思わない 5. 全くそう思わない

【ねらっていること】

授業目標への到達度で成績評価

授業目標への到達度＝授業でねらっている**学習成果**

授業目標への到達度＝成績

⇒ **成績＝学習成果** ⇒ GPA＝学習成果の指標

授業目標への到達度を学生が自分でふりかえる

達成感を学生が自分で確認する

15回の授業で適度な負荷をかけられる

努力により一山超える(超えられるように授業がデザインされている)

⇒ **適正な達成感** ⇒ 小さな成功を授業の数だけ体験 ⇒ 自己効力感

【そのために必要なこと】

・授業目標が適切であること

- ・受講生にかけられる負荷が適切であること（難しすぎない，楽勝科目でない）
- ・受講生が努力すること

【そのための措置】

授業は教員の事実上の聖域であった

→ 29年度に行うシラバス点検では授業内容に踏み込むことになる

「成績評価の基準」について **3年計画** で浸透を図る

28年度に行う 29年度用シラバスの点検のテーマ
『いつ、何で、何点つけるか』が明記されている」

29年度に行う 30年度用シラバスの点検のテーマ
『いつ、何で、何点つけるか』のそれぞれについて、授業目標のうちどの部分に関係づけられており、受講生の何を見るのかが明記されている」

30年度に行う 31年度用シラバスの点検のテーマ
「授業目標の部分部分を受講生がいつどのような過程を経て達成するかが明記されている」

【シラバスの目的】

- ・学生がシラバスを見て、この授業がどういう授業であり、何を求められており、何がどういうふうになれるようになれば何点もらえるのか、が分かるようにする。
 - ⇒ そのために、シラバス執筆にあたって、次の2点をまず考える
 - ・この授業での目標を達成するために、**学生にどのような努力をしてほしいのか**をはっきりさせる
 - ・こちらが望む努力を、学生が間違いなく行わざるを得ないような**評価構造**を考える

【シラバス点検の方針】

- ・摘発・検閲が目的ではない
- ・教員の理念的な部分は点検の対象とせず、受講生にとって必要にして有益な情報が書かれているかどうか、という部分を点検対象とする。

【シラバス点検作業の観点】

- (1) 受講生が、何ができるようになればいいのかがイメージできるか？
- (2) 授業を受けるための前提（既習科目や必要とする最低限の知識やスキル等）が書かれているか？
- (3) 学生が、どのような努力をすれば単位が取れるのかが書いてあるか？
例：「この授業は遅刻できない」「この授業は読書課題が多い」「人と交流しなければ単位が取れない」
- (4) 学生がすべき準備の時間量や中間試験，期末試験，学外実習の日程や経費等が書かれているか？

平成28年度「学習時間に関するアンケート」報告書

1. 調査期間 2016年12月～2017年1月
2. 調査対象の属性
1年～3年生（平成28年度） 有効回答数： 5,357（有効回答率 81%）
3. 調査結果のまとめ

① 学習場所 (p.3～p.5)

中央図書館の整備にしたがい、1年生が図書館で勉強する割合が継続的に増加している。2015年度は、中央図書館の利用率が72%に上昇し、2016年度は、75%に微増した。一方、2016年度は生協の食堂やパンショップで勉強する1年生の割合が前年度の15%より22%まで上昇した。

② 宿題がほぼ毎週出される科目数 (p.7～p.9)

履修している授業のうち、予復習などの宿題がほぼ毎週出される科目数は3科目が最も多い。例年と比べ、宿題が出される科目数が増加している傾向にあり、5科目以上の割合が2015年度と同じく21%に達している。

③ 読書数 (p.9～p.11)

27%の1年生は一か月の間、本を1冊読んでおり、25%の学生は本を2～4冊読んでいます。昨年度とほぼ同じ結果となっている。一か月の間、読書数が0冊の1年生は39%に達していることに注目すべきである。2年生と3年生においても、4割程度の学生が殆ど本を読まない。

④ 一週間あたりの授業時間外の学習時間 (1年生, p.13)

一週間あたりの授業外学習時間に関して、「3～5時間」勉強する1年生の割合が最も多く、31%に達している。11時間以上勉強する1年生が22%いる一方、一週間あたりの授業外の学習時間が「0時間」と「1時間未満」の学生がそれぞれ3%と4%を占めている。一週間あたりの授業外学習時間が「6時間以上」の1年生の割合は、2015年度の46%から41%に微減した。

⑤ 一週間あたりの各種活動の時間 (p.12～p.16)

学年次別で信大生の各種活動を見てみると、1年次の学生は授業時間及びサークル・部活動に使う時間が最も多いのに対し、3年次になると、自主的学習時間が長い。2015年度と比べると、2016年度は1年次の学習時間が若干増えたのに対し、2年次と3年次に関しては微減が見られる。なお、本学の学生の学習時間数は全国平均とほぼ同水準となっている。

⑥ 成績と各種活動の時間 (p.17～p.20)

成績優秀者は授業外の学習時間が長いという傾向がすべての学年で確認された。1年次の学生にとって、履修科目数が多いこと、資格勉強などの自主的学習時間が長いこと、サークル・部活動時間とアルバイト時間の合計が長いことが、学業成績に悪影響を及ぼす主な要因となっている。注目すべきは、成績不振者の中で、サークル・部活動もアルバイトもしない「孤独な学生」が今回の調査では138人いることが明らかになった。

【提案】

- ① 自己効力感を感じさせる大学生活を送るためには、1年次の比較的早い時期から、履修指導、授業外学習時間の確保、さらに勉強とサークル・部活動、アルバイトとの両立するための時間の使い方に対する指導が必要である。
- ② 少数ではあるが、大学生活にコミットできない「孤独な学生」をも包括する支援プログラムの開発が求められている。例えば学生・教員すべてを巻き込むアクティブラーニングを通して、「孤独な学生」を作り出さない環境の整備を進めるのも効果的であろう。

目 次

1. 回答者数.....	3
2. 学習場所（多項選択）	3
3. 履修する科目（一週間）	6
4. 履修している授業のうち，予復習などの宿題がほぼ毎週出される科目数	7
5. 一か月あたり読む本の数（マンガや雑誌は除く）	9
6. 一週間あたりの授業時間外の学習時間.....	12
7. 一週間あたりの各種活動の時間.....	13
8. 一週間あたり授業と関連する学習時間.....	15
9. 成績と各種活動の時間.....	17

1. 回答者数

表 1 回答者数

	1年次				2年次				3年次				合計			
	学生数	回収数	回収率		学生数	回収数	回収率		学生数	回収数	回収率		学生数	回収数	回収率	
人	179	135	75%	(73%)	159	72	45%	(43%)	162	71	44%	(51%)	500	278	56%	(56%)
教	251	235	94%	(91%)	289	243	84%	(80%)	287	246	86%	(68%)	827	724	88%	(80%)
経	201	182	91%	(84%)	194	162	84%	(83%)	247	196	79%	(66%)	642	540	84%	(76%)
理	223	184	83%	(74%)	216	146	68%	(77%)	210	132	63%	(62%)	649	462	71%	(71%)
医	122	119	98%	(79%)	136	118	87%	(57%)	128	114	89%	(89%)	386	351	91%	(75%)
保	155	144	93%	(88%)	151	142	94%	(90%)	153	126	82%	(87%)	459	412	90%	(88%)
工	514	475	92%	(83%)	502	450	90%	(88%)	650	462	71%	(72%)	1666	1387	83%	(81%)
農	180	167	93%	(92%)	181	153	85%	(85%)	190	106	56%	(76%)	551	426	77%	(84%)
織	299	244	82%	(81%)	285	260	91%	(95%)	332	273	82%	(88%)	916	777	85%	(88%)
全	2,124	1,885	89%	(83%)	2,113	1,746	83%	(81%)	2,359	1,726	73%	(73%)	6,596	5,357	81%	(79%)

注：() の中は 2015 年度の回収率

2. 学習場所（多項選択）

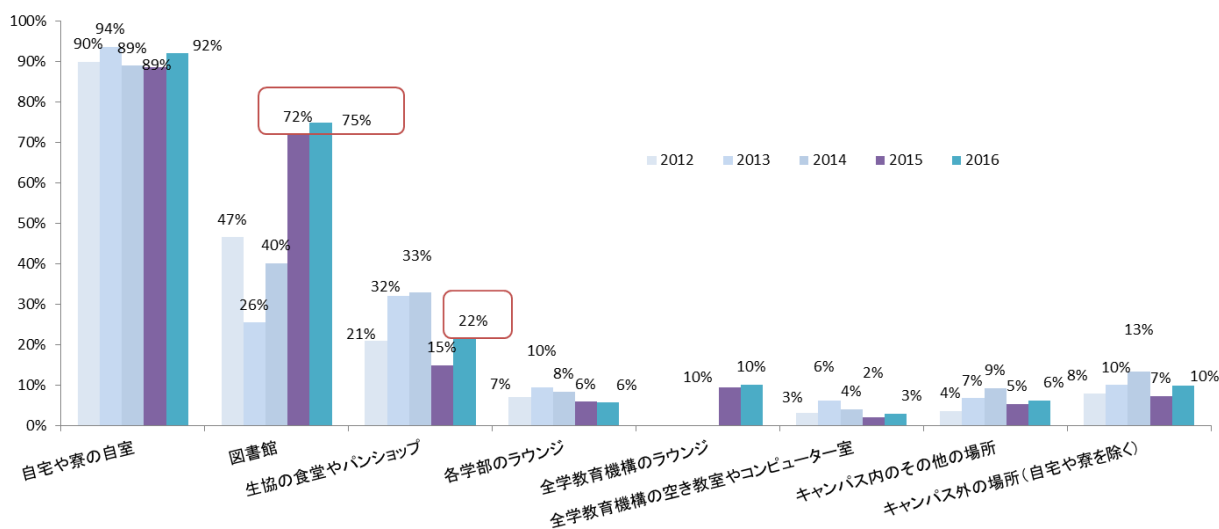


図 1 学習場所の変化（1年次・年度別）

2013 年度に中央図書館は耐震工事が行われたため、1 年生の利用が大きく減少したが（26%）、2014 年度には改修前の 2012 年度の水準の近くまでに回復した（40%）。2015 年度は、中央図書館の利用率が 72% に上昇し、さらに 2016 年度は、その利用率が 75% に微増した。図書館の利用率の増加にしたがい、他の場所で学習する学生が若干減少した。図書館にスペースさえあれば、利用したいという学生のニーズが読み取れる¹⁾。一方、2016 年度は生協の食堂やパンショップで勉強する学生の割合が前年度の 15% から 22% まで上昇した。

¹⁾年度別の比較は、すべて 1 年生の調査結果である（以下同）。

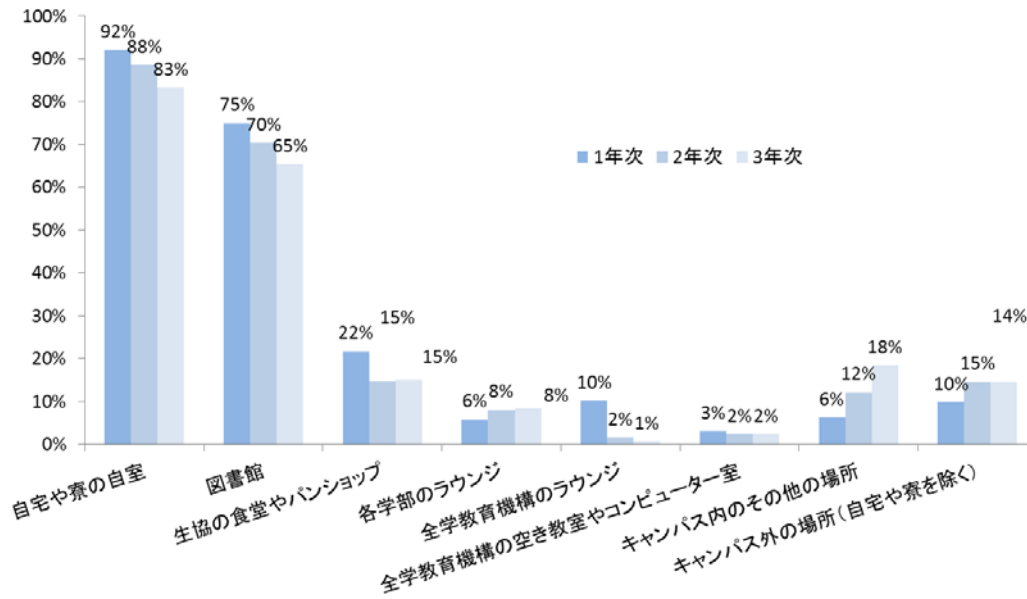
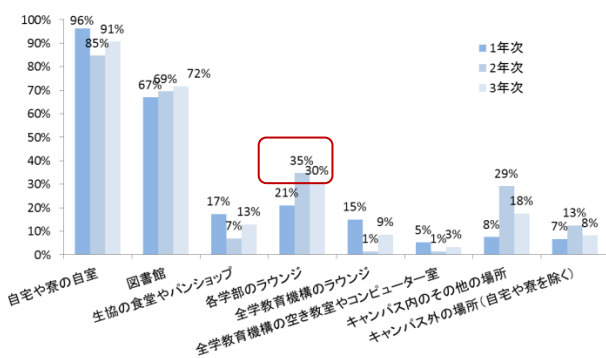
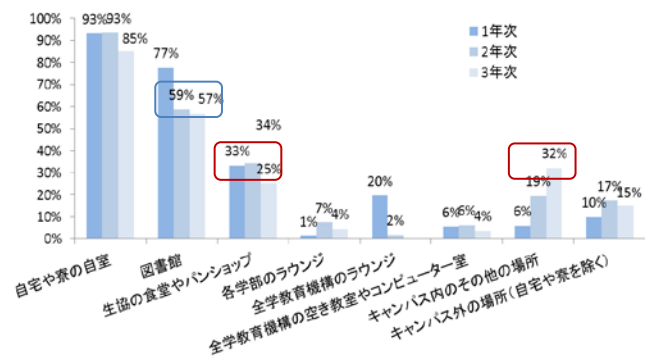


図 2 学習場所×学年（全学）

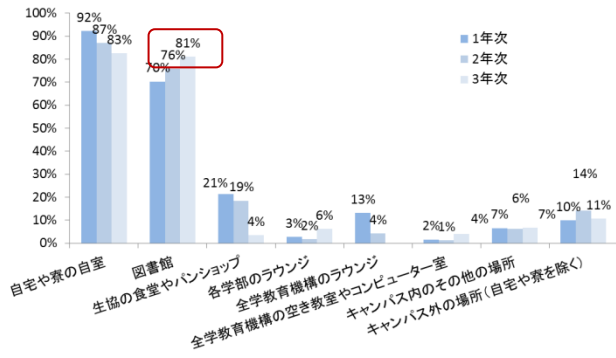
全体的に言えば、図書館の利用率は学年が上がるにつれ、減少する傾向にある。その代わりに、学生がキャンパス内の他の場所、キャンパス外の場所（自宅以外）で勉強する割合が増える。



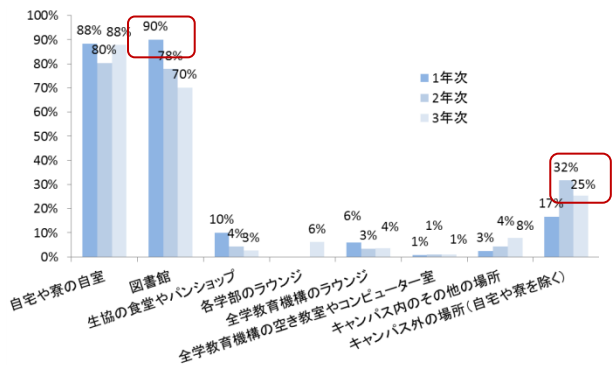
人文学部



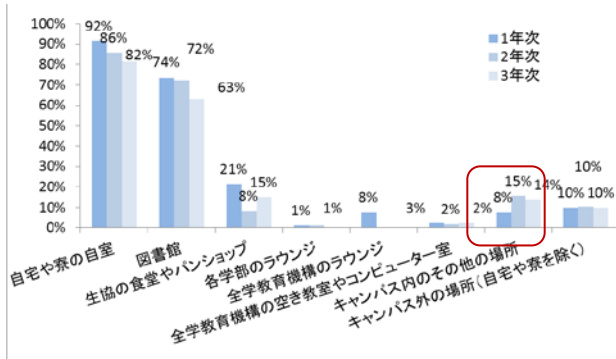
教育学部



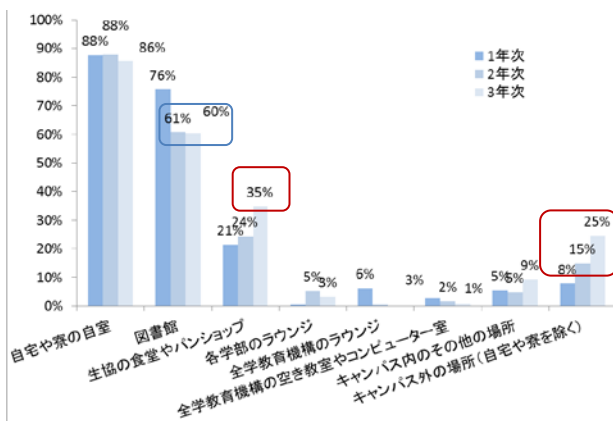
経済・経法



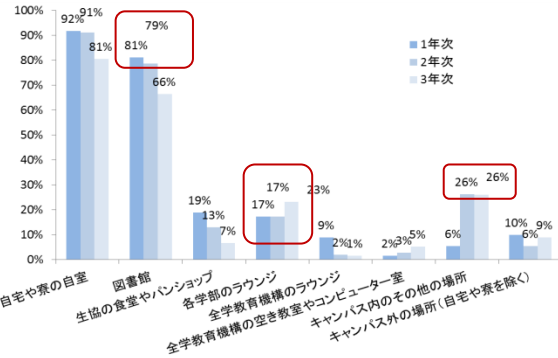
医学科



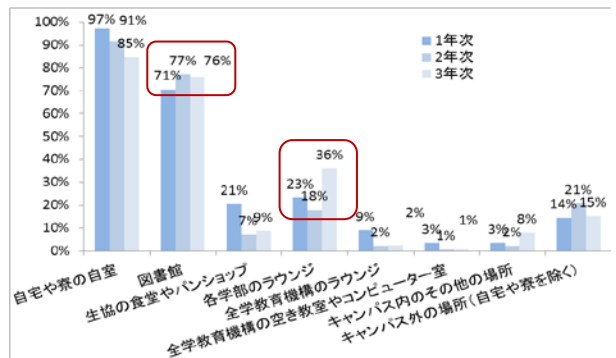
工学部



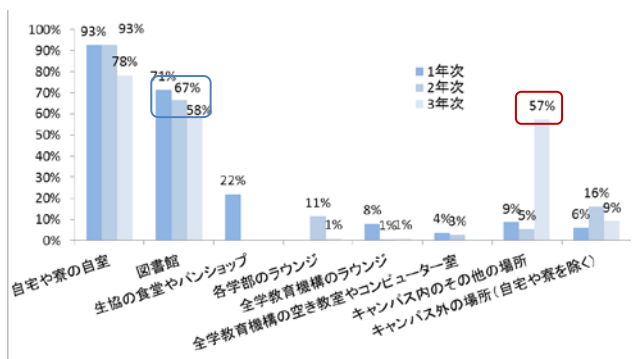
繊維学部



理学部



保健学科



農学部

図 3 学習場所×学部×学年

学部別でみると、図書館に近い人文学部、経法学部、理学部の学生は図書館で学習することが多く見られる。人文学部、理学部、保健学科の学生は学部内のラウンジを積極的に活用する傾向がある。教育学部の学生は生協の食堂やパンショップ、さらに3年次にはキャンパス内のその他の場所を利用する割合が高い。医学科の学生はキャンパス外の場所で学習する割合が他学部より高い。一方、繊維学部の3年次の学生は生協の食堂・パンショップ（35%）、及びキャンパス外の場所（25%）で勉強する割合が他学部より高い特徴がある。

3. 履修する科目（一週間）

表 2 履修科目数（一週間）

学部	学年	平均値	中央値	標準偏差	最小値	最大値	度数
人	1年次	13.6	13.8	2.2	3	20	131
	2年次	11.7	11.9	2.1	1	16	73
	3年次	8.4	7.9	3.5	4	18	72
教	1年次	12.5	12.7	1.7	3	17	233
	2年次	14.5	14.8	3.4	2	27	240
	3年次	10.8	10.7	3.1	2	25	244
経	1年次	10.6	10.6	1.6	4	20	178
	2年次	8.1	8.1	1.9	2	20	159
	3年次	6.4	6.4	2.9	0	23	193
理	1年次	14.6	14.6	2.1	5	20	178
	2年次	10.3	10.3	2.5	3	20	143
	3年次	7.1	6.9	3.6	1	20	135
医	1年次	12.8	13.1	3.2	1	19	117
	2年次	8.4	8.2	2.5	3	25	108
	3年次	10.6	10.6	2.5	4	20	81
保	1年次	13.1	13.0	1.9	3	24	146
	2年次	10.6	11.1	2.4	1	17	137
	3年次	8.1	8.1	3.2	0	15	89
工	1年次	11.3	11.2	2.7	2	41	470
	2年次	12.2	13.0	2.6	3	24	439
	3年次	8.6	8.6	3.0	1	20	463
農	1年次	11.9	11.7	2.1	2	18	165
	2年次	12.5	12.5	1.7	2	21	148
	3年次	5.7	4.9	3.1	2	15	110
織	1年次	10.9	10.5	2.1	4	24	242
	2年次	11.7	11.6	1.7	8	18	253
	3年次	9.1	9.0	2.7	1	19	275
全学	1年次	12.1	12.0	2.6	1	41	1,860
	2年次	11.5	11.6	3.1	1	27	1,700
	3年次	8.5	8.5	3.4	0	25	1,662

医学科を除き、全体から言えば1年次、2年次に科目を多めに履修する特徴が共通的に見られる。

4. 履修している授業のうち、予復習などの宿題がほぼ毎週出される科目数

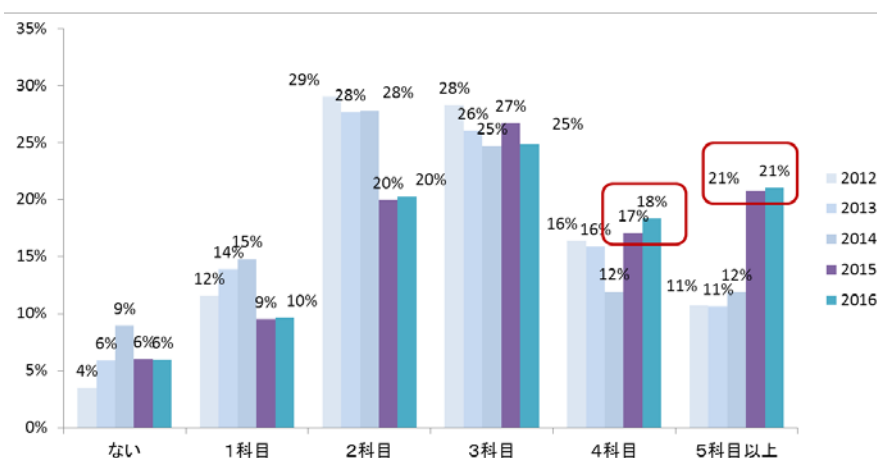


図 4 宿題が出される科目数（1年次・年度別）

1年次の中で、履修している授業のうち、予復習などの宿題がほぼ毎週出される科目数は3科目が最も多い。2015年度と2016年度、宿題が出される科目数が増加している傾向にあり、とりわけ5科目以上の割合が21%に達し、2014年度より大幅に増加したことが確認できる。

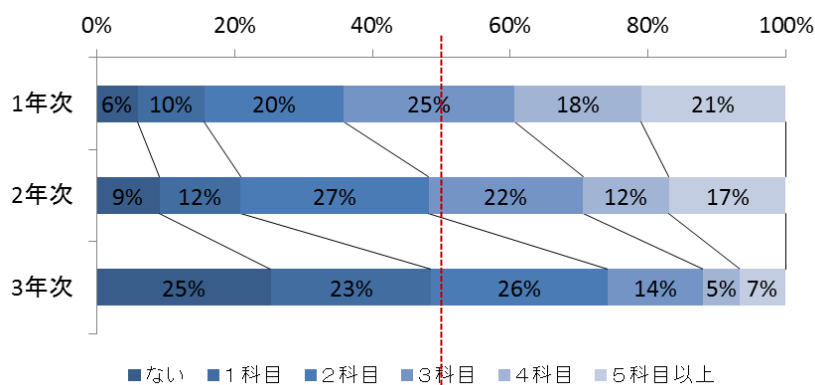
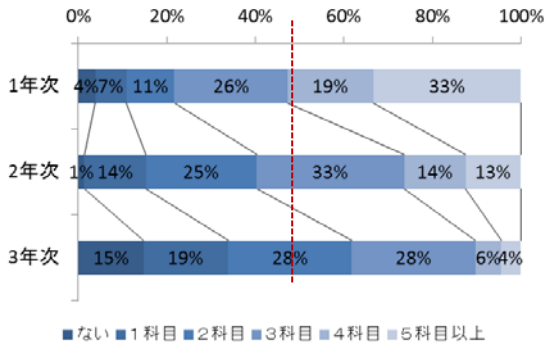


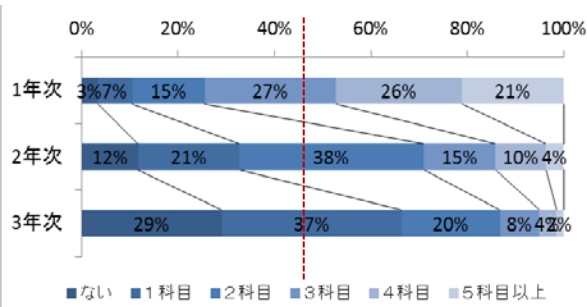
図 5 宿題が出される科目数×学年（全学）***

注：***<0.1%， **<1%， *<5%， +<10%， 以下同

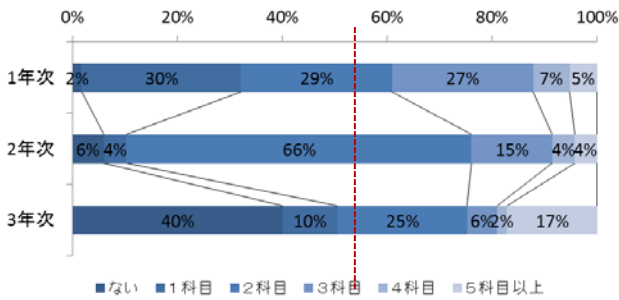
学年が上がるにつれて、宿題が出される科目数が大幅に減少した傾向にある。2年次と3年次については、2015年度比べ、2016年度宿題が出される科目数が微減した結果である（図省略）。



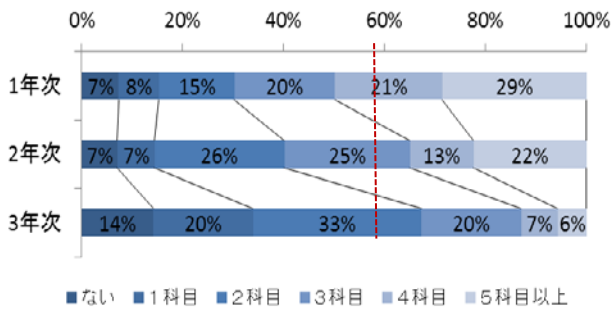
人文学部***



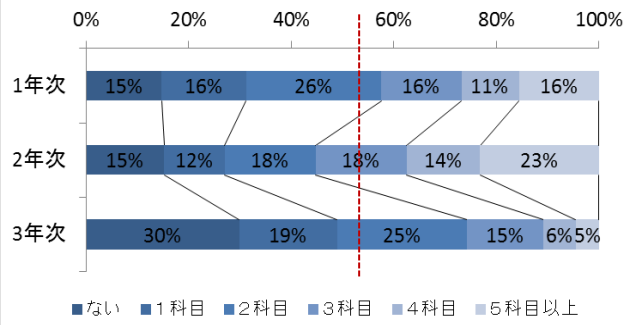
経済・経法学部***



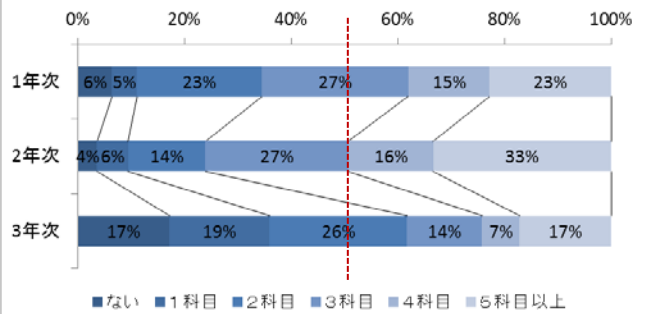
医学科***



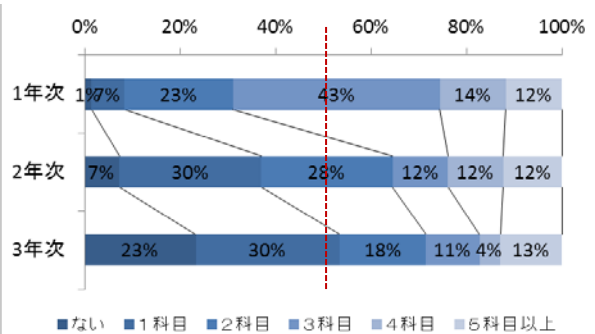
工学部***



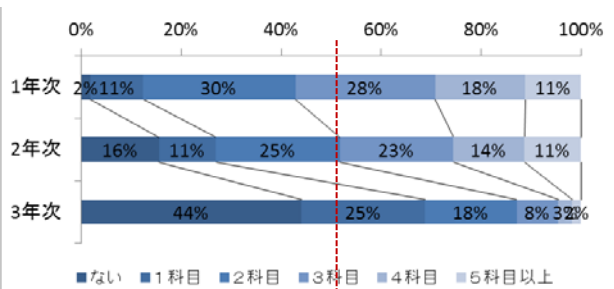
教育学部***



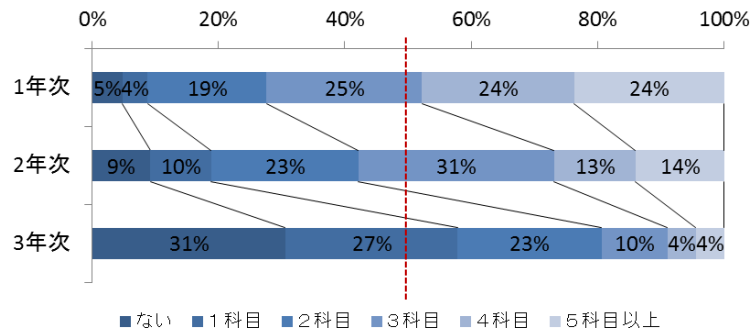
理学部***



保健学科***



農学部***



繊維学部***

図 6 宿題が出される科目数×学部×学年

学部別で言えば、人文学部、経法学部、理学部、工学部、繊維学部は全学平均より宿題が出される科目数が多い。3年次になると、宿題が出される科目数が大幅に減少したことは各学部で共通して見られる。2015 度と比べ、保健学科の各学年において、宿題が出される科目数が増加した（図省略）。

5. 一か月あたり読む本の数（マンガや雑誌は除く）

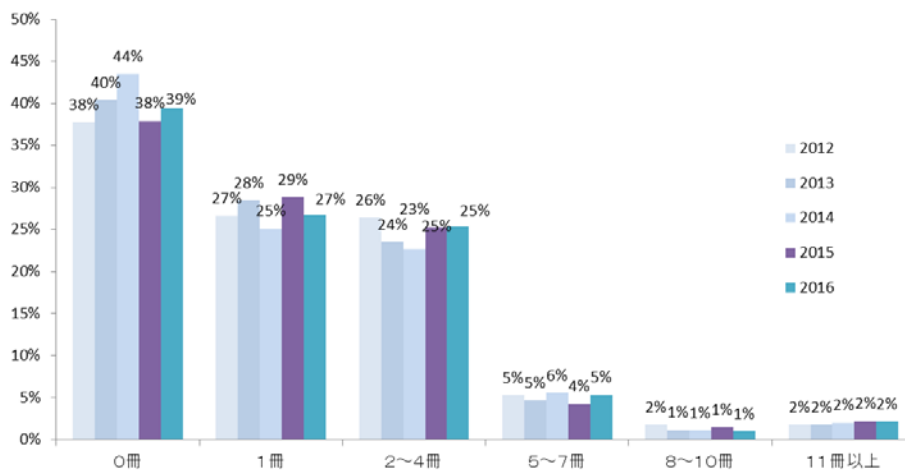


図 7 一か月の読書数（1年次・年度別）

27%の1年生は一か月の間、本を1冊読んでおり、25%の学生は本を2~4冊読んでいる。昨年度とほぼ同じ結果となっている。一か月の間、読書数が0冊の1年生は39%に達していることに注目すべきである。

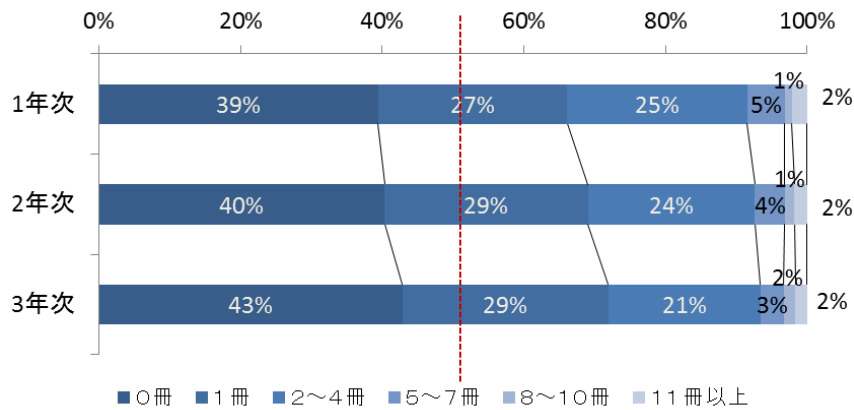
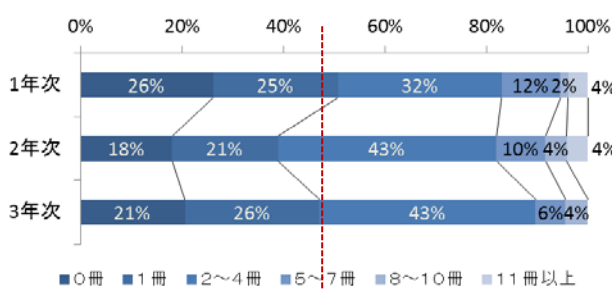
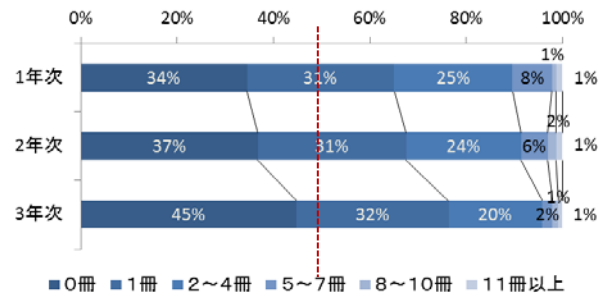


図 8 一か月の読書数×学年**

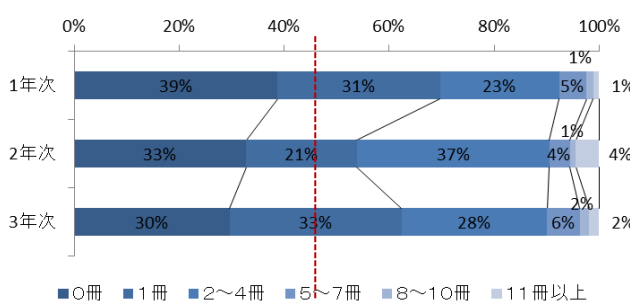
すべての学年において、4割前後の学生が本を読む習慣を身につけていない。また、学年が上がるにつれて、読書数が増加する傾向が見られず、読書の習慣は早い時期から定着したものと考えられる。



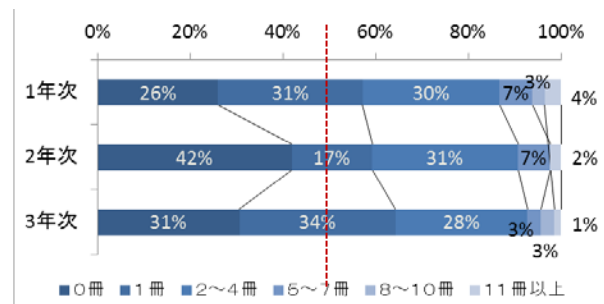
人文学部 n. s.



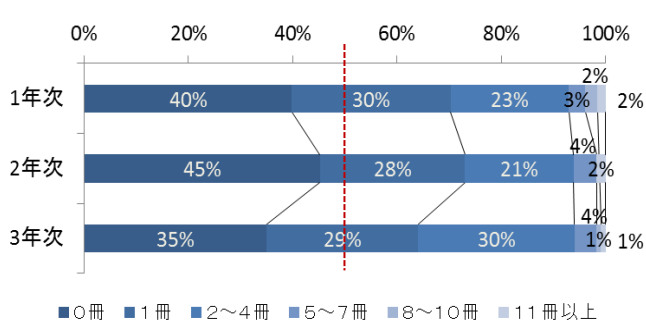
教育学部 n. s.



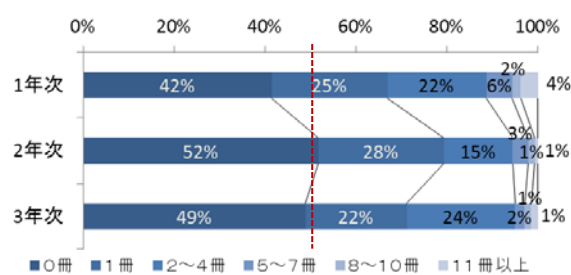
経済・経法学部 n. s.



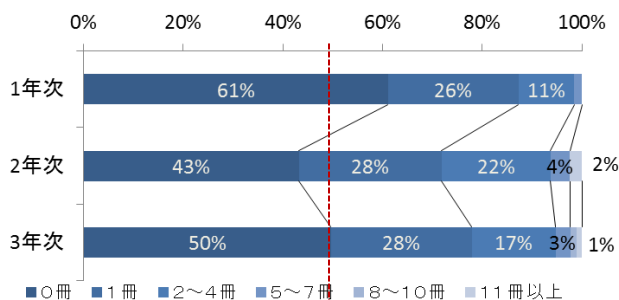
理学部*



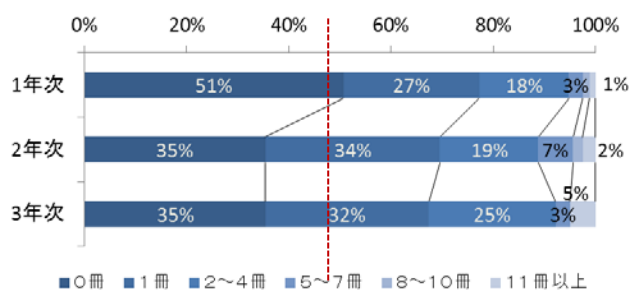
医学科 n. s.



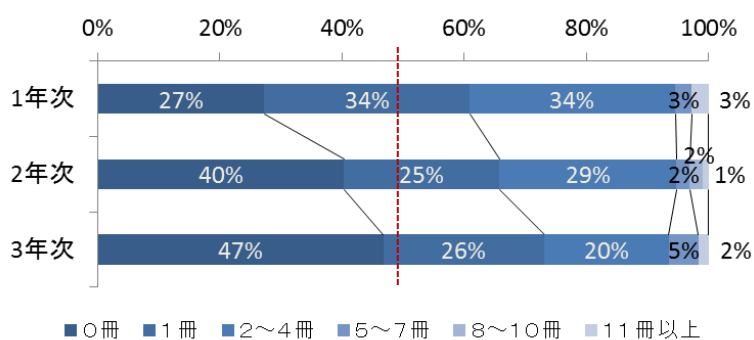
保健学科 n. s.



工学 n. s.



農学+



繊維学部*

図 9 一か月の読書数×学部×学年

学部別でみると、人文学部の学生は他の学部より積極的に読書に取り組んでいる。2015年度と比較してみると、理学部，医学科，保健学科を除き，2016年度の1年生の読書数が減少する傾向にある。

6. 一週間あたりの授業時間外の学習時間

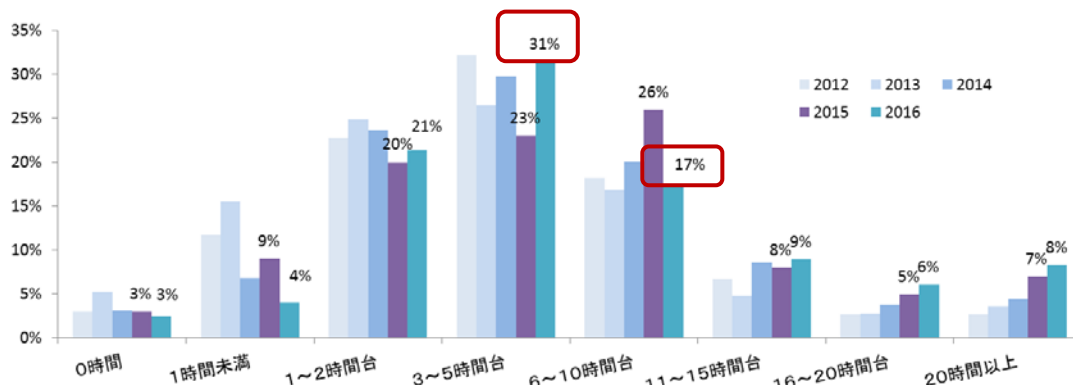


図 10 一週間あたりの授業外学習時間（1年次・年度別）

一週間当たりの授業外学習時間²⁾に関して、「3～5時間」勉強する1年生の割合が最も多く、31%に達している。一方、11時間以上勉強する1年生が22%いる一方、一週間あたりの授業外の学習時間が「0時間」と「1時間未満」の学生がそれぞれ3%と4%を占めている。全体からいうと、2012年度、2013年度及び2014年度と比べ、2016年度は1年生の授業外学習時間が増加した結果がある。但し、一週間あたりの授業外学習時間が「6時間以上」の1年生の割合は、2015年度の46%から41%に微減した。

²⁾ 2012年～2014年度は、「自学自習（予復習を含む）」として調査したが、2015年度からは、この部分の項目を「授業と関連する自学自習（予復習を含む）の時間」と「自主的学習時間」（例えば読書、公務員試験などの資格試験の準備、趣味の学習等）の2つに分けて調査した。したがって、図10の2015年度と2016年度の値は、この両者の合計である。

7. 一週間あたりの各種活動の時間

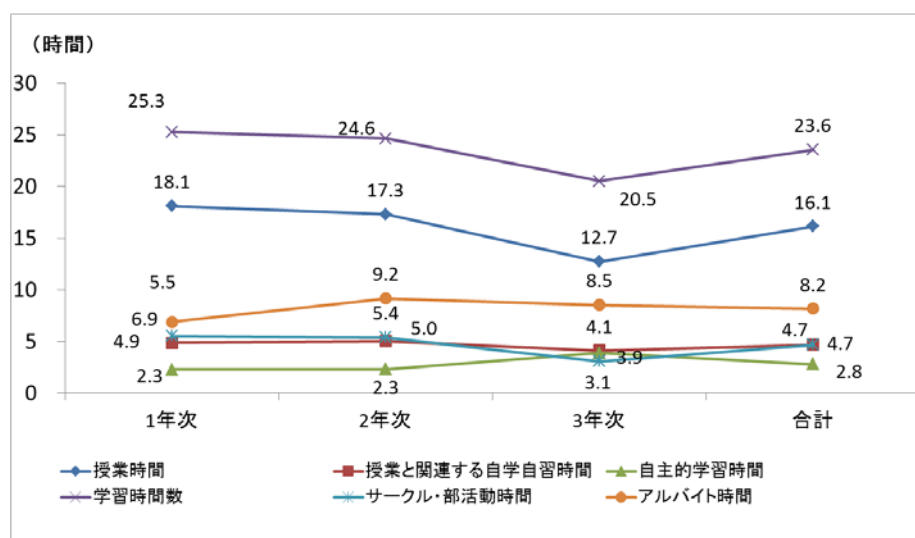


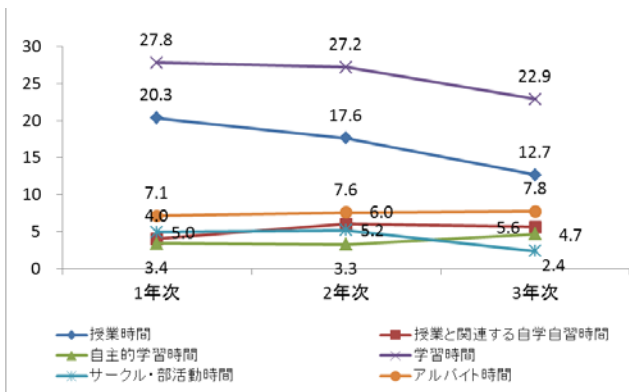
図 11 一週間あたりの各種活動の時間（全学）

学年次別で信大生の各種活動を見てみると、1年次の学生は授業時間³⁾及びサークル・部活動の時間が最も多いのに対し、3年次になると、自主的学習時間が長くなる。恐らく3年生が資格などに関する自己学習の時間が長くなると考えられる。2015年度と比べると、2016年度は1年次の学習時間が若干増えたのに対し、2年次と3年次に関しては微減が見られる。

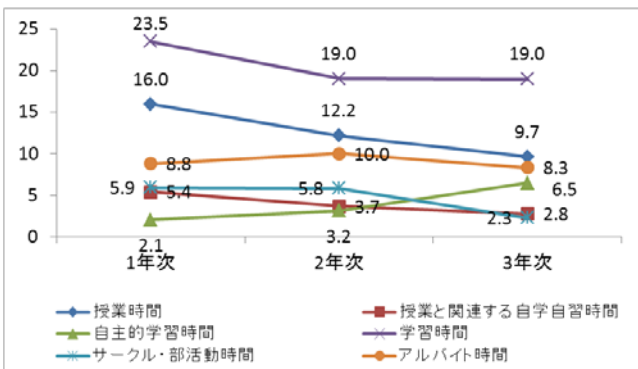
一方、「授業時間」と「授業と関連する自学自習時間」及び「自主的学習時間」を合計して算出された一週間あたりの学習時間数は23.6時間となっている。

東京大学大学経営政策研究センター（CRUMP）が実施した『全国大学生調査』（2007年，サンプル数44,905人，<http://ump.p.u-tokyo.ac.jp/crump/>）によると，日本の大学生の学習時間（授業，授業関連の学修，卒論）は一日4.6時間となっている。これに対し，2016年度の本学の学生の学習時間は一日4.73時間であり，2007年調査の全国平均より若干上回る結果である。

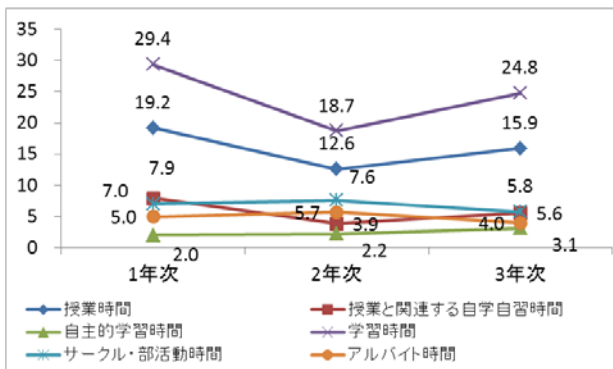
³⁾ 「授業時間」は「履修科目数」×1.5時間で算出する。



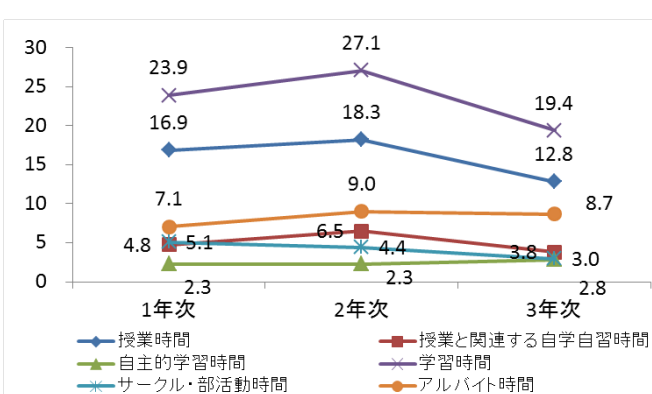
人文学部



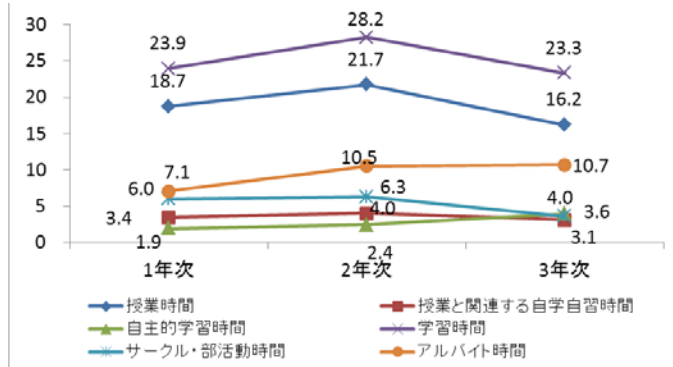
経済・経法学部



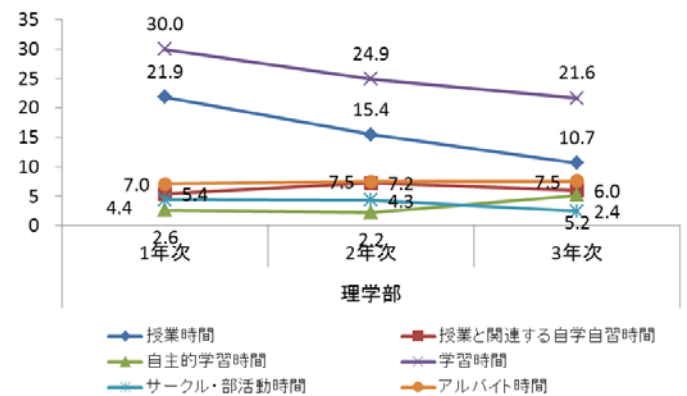
医学科



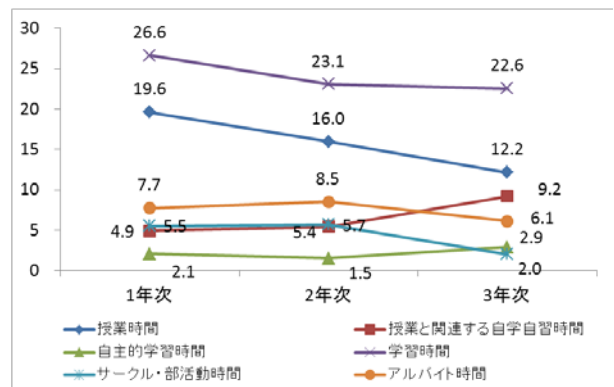
工学部



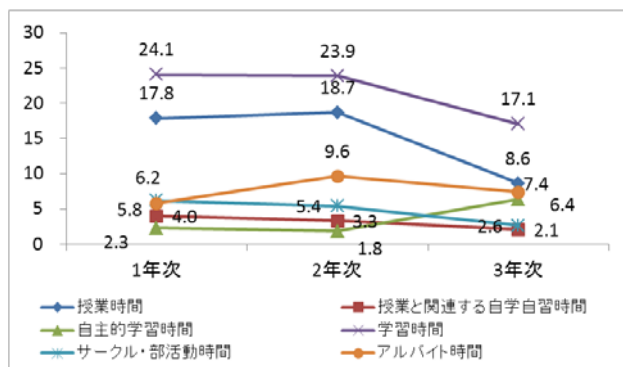
教育学部



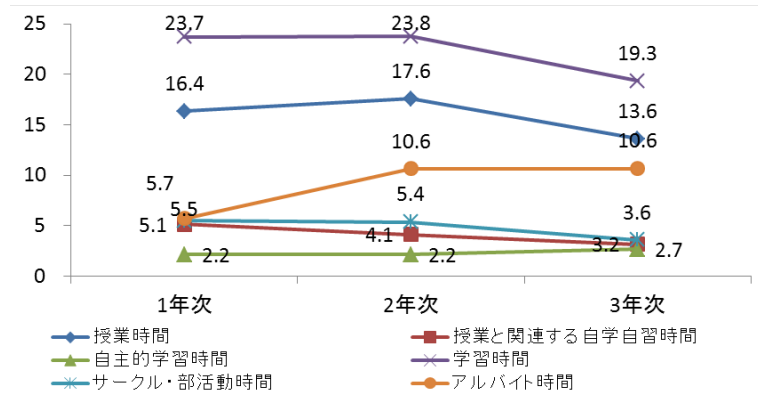
理学部



保健学科



農学部



繊維学部

図 12 一週間あたりの各種活動の時間（各学部）

8. 一週間あたり授業と関連する学習時間

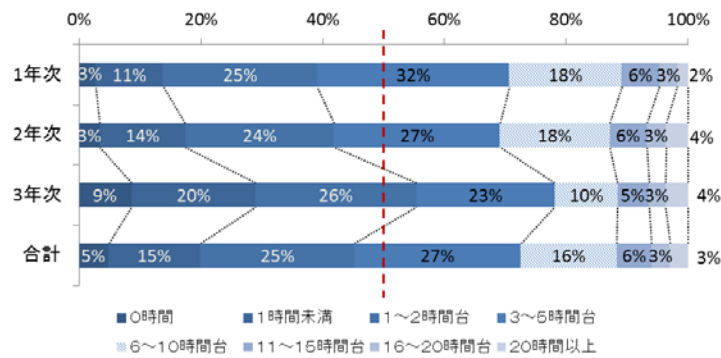
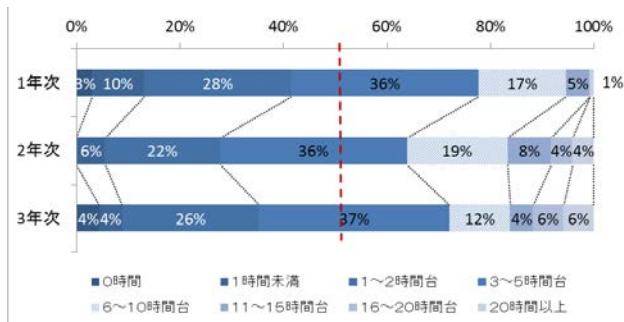


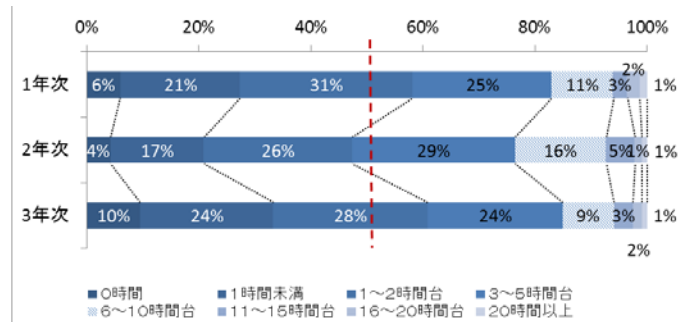
図 13 一週間あたり授業と関連する学習（全学）***

一週間あたりの授業と関連する学習時間を時間台別で分析してみると、2015年と比べ、2016年に1年次生の一週間あたりの授業と関連する学習時間が6時間以上の割合は、22%から29%まで上昇した。しかし、2年次と3年次になると、授業と関連する学習時間が微減した結果が見られる。

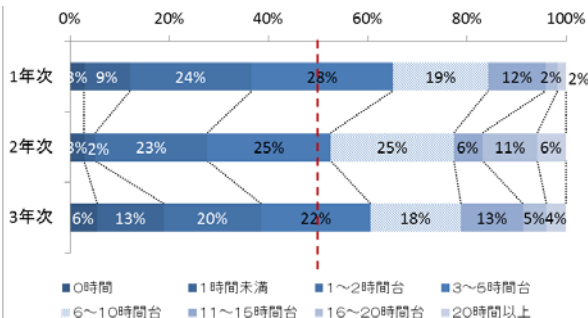
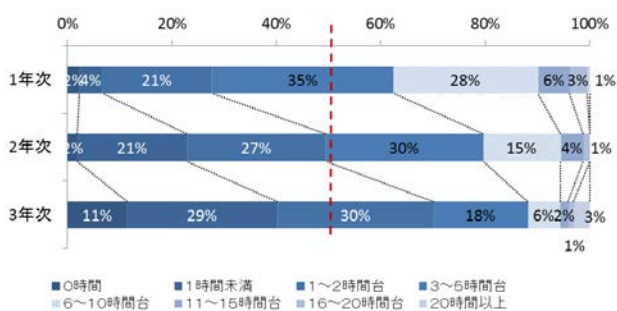
(2)



人文学部 n.s.

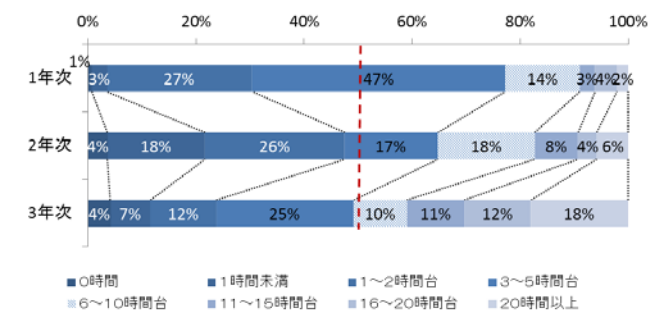
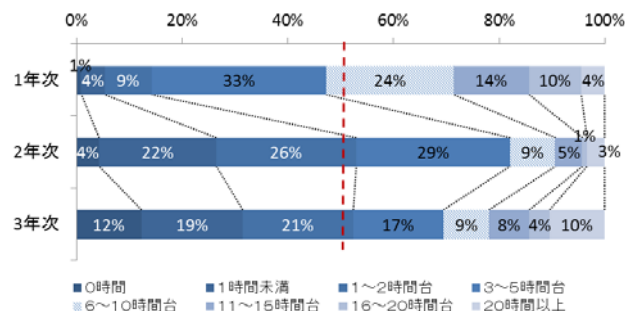


教育学部 n.s.



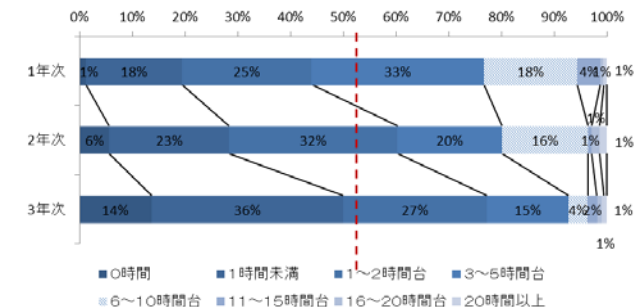
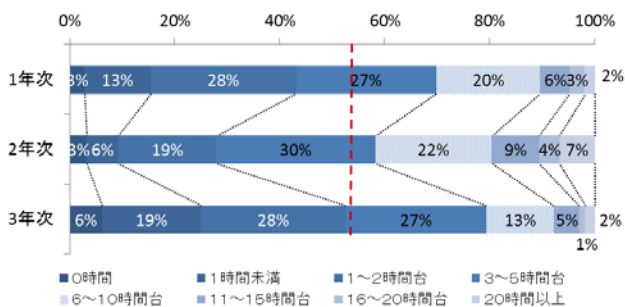
経済・経法学部 ***

理学部 **



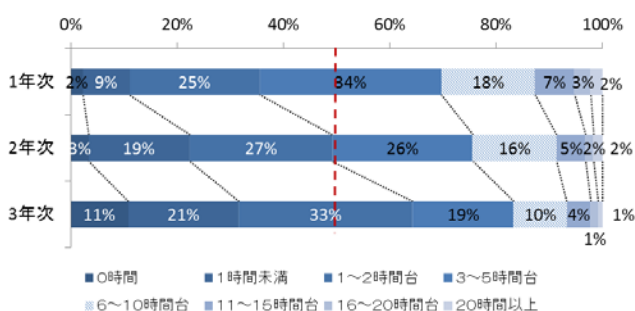
医学科 ***

保健学科 ***



工学部 ***

農学部 ***



繊維学部 ***

図 14 一週間あたり授業と関連する学習時間×学部

学部別で一週間あたりの授業と関連する学習時間を時間台別で分析してみると、2015年と比べ、人文、経法、繊維学部の各学年の時間の増加が見られる。医学科は2016年度の1年生の授業に関する学習時間が前年度より大幅に拡大したものの、2年次になると、減少が激しい。

9. 成績と各種活動の時間

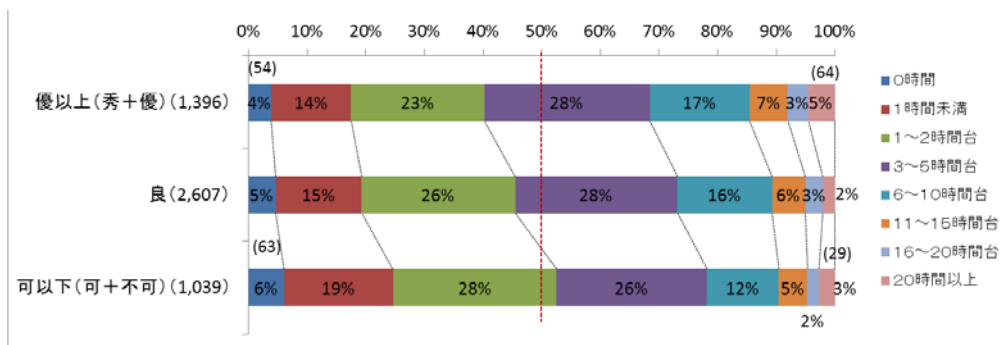


図 15 授業と関連する自学自習×成績***

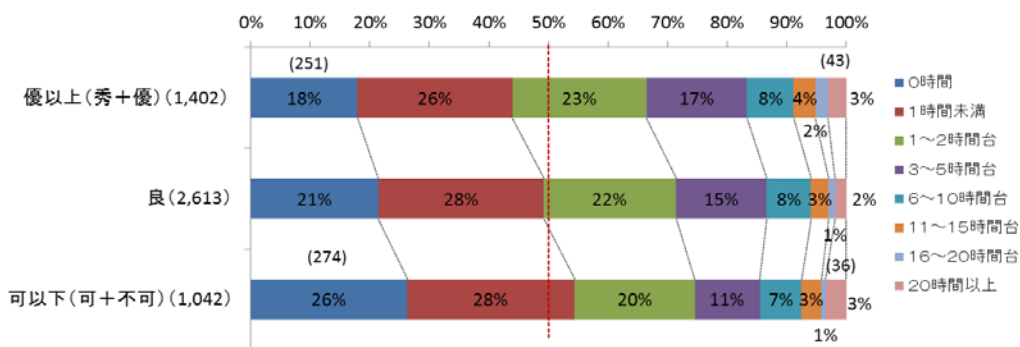


図 16 自主的学習×成績***

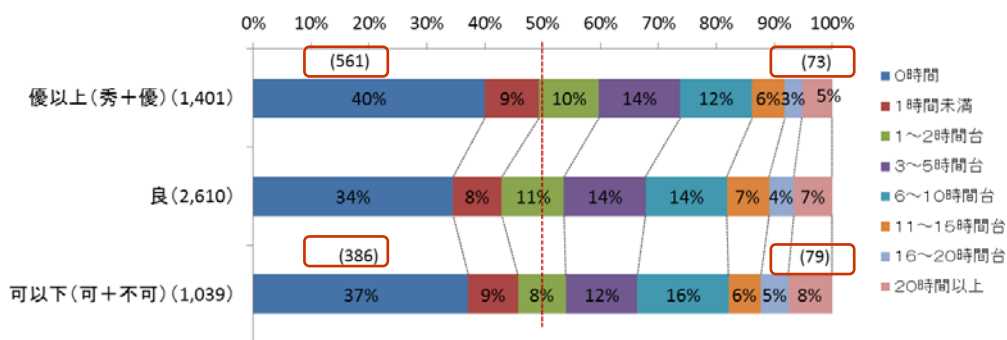


図 17 サークル・部活動×成績 **

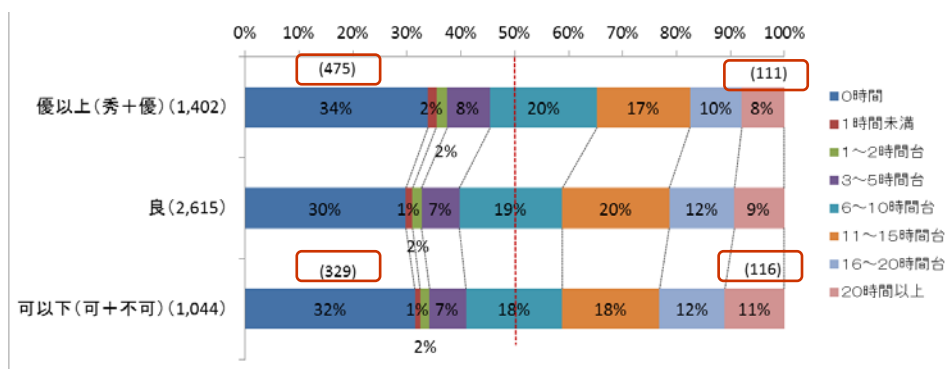


図 18 アルバイト×成績*

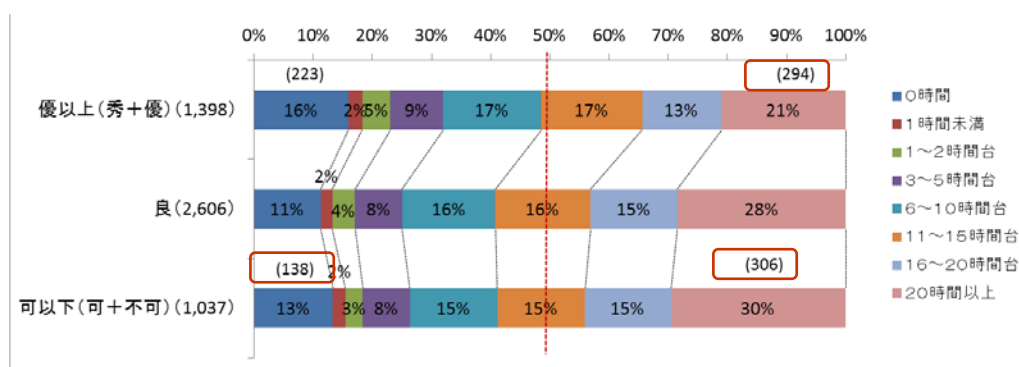


図 19 サークル・部活動・アルバイト時間×成績***

成績別で学生の活動を見てみると（図 15～図 19），成績優秀者の方が授業と関連する学習，自主的学習の時間が長くなる傾向にある。一方，成績不振の学生（可以下）はサークル・部活動，及びアルバイトの時間が若干長いものの，その他の成績グループ（秀，優，良）の学生との間には大差が見られない。成績別でサークル・部活動時間とアルバイトの時間の合計を見てみると，両者の時間が一週間あたり 20 時間を超えたのは成績下位群の学生の 30%（306 名），成績上位群の 21%（294）を占めている（図 19）。但し，実数から言えば両者には大差が見られない。つまり，勉強と趣味・アルバイトは両立できることである。注目すべきは，成績不振者の中で，サークル・部活動もアルバイトもしていない学生が 13%（138 名）を占めていることである。ここでは，成績不振者の中で課外活動もアルバイトもしていない学生を「孤独な学生」と呼ぶ。いかにこのような「孤独な学生」を見つけ出し，学習，課外活動に興味を持たせるのかが課題である。

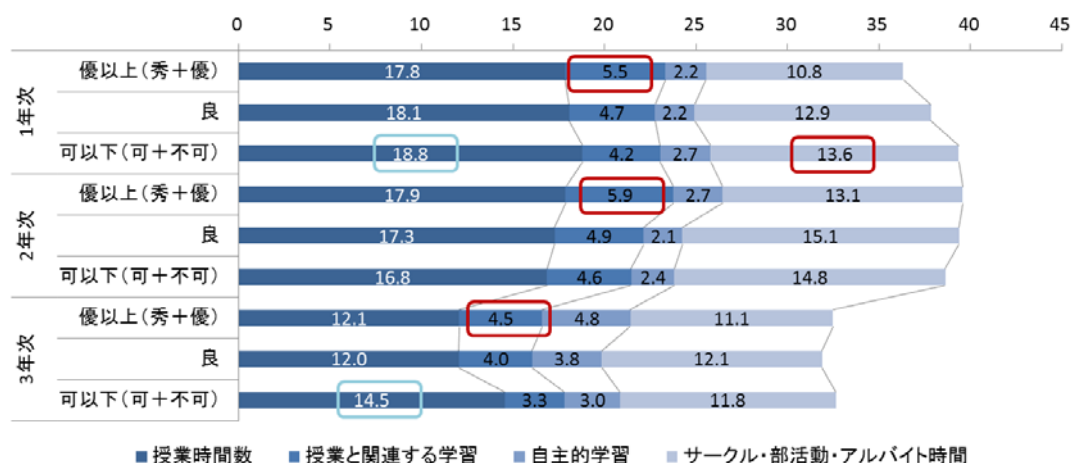


図 20 各種活動の時間×成績×学年

図 20 は学年別及び成績別で各種の活動時間の平均を見た内容である。まず、成績下位群の学生に注目してみると、授業時間数、即ち科目履修数が 1 年次に各成績群で最も多いのに対し、2 年次になると履修科目数が減少し、3 年次に再び最多となる。恐らく 3 年次に不合格の科目を再履修することとなったと推測できる。しかし、授業と関連する学習時間が各成績群で最も少ない。このように、1 科目にかかる時間がかかなり少なくなるという問題が指摘できる。一方、授業と関連のない自学自習の時間については、1 年次には最も少ないのに対し、学年が上がるにつれて、その時間が増加する傾向にある。サークル・部活動とアルバイト時間の合計が 1 年次の時に、有意に長いという特徴がある。

それに対して、成績上位群の学生は各学年の授業時間数、即ち科目履修数が 2 年次を除き、いずれも平均を下回る特徴がある。それに対して、授業と関連する学習時間が最も長いことはすべての学年で確認できた。履修科目に時間をかけて学習することができたからこそ、よい成績に繋がったと推測できる。3 年次になると、自主的学習の時間が他の学習群と比べ、長い傾向がある。

表 3 成績を規定する要因

	性別 (女性=1)	履修科目数	授業と関連する学習	自主的学習	サークル・部活動・アルバイト時間
1年次	+	-	+	-	-
2年次			+		
3年次	+	-	+	+	

表 3 は、成績を従属変数にし、性別、履修科目数、及び各種活動の時間を独立変数にして重回帰分析を行った結果、授業と関連する学習時間が成績を強く規定しているという結果がある。これはすべての学年で見られた結果である。女子学生が 1 年次と 3 年次の時に、男子学生より成績が有意に高い。履修科目数について、1 年次と 3 年次は成績と負の相関、

2年次は成績と正の相関を示している。要するに、学習時間を保証するためには、履修科目を合理的に選択する必要がある。授業と関連のない自主的学習は1年次の時は成績と負の相関、3年次の時は正の相関を示している。1年次の時はいきなり資格勉強などの学習に励むのは、正規授業の成績に悪影響を与えかねないことを意味している。一方、1年次の時は、サークル・部活動・アルバイトの時間が長いほど、成績に悪影響を与える結果がある。

このように、良い成績を収めるには、地道な勉強が欠かせない。そして、1年次の時間の使い方が極めて大事であることが信大の「学習時間調査」で明らかになっている。1年次には、履修科目数を無理のない範囲で選択し、各科目の学習に十分な時間をかければよい成績を収めることができる。したがって、自己効力感を感じさせる大学生活を送るためには、1年生の早い時期に、合理的に履修計画を立て、授業外で学習する習慣を身につけたうえで、自主的学習、趣味とアルバイトなどを計画することが大切であろう。

教員業績評価に係る自己申告書様式(2017年度:高等教育研究センター)

学部等名: 高等教育研究センター

職名:

氏名:

分野	教育	研究	社会活動	大学運営	計
重み設定					0.0

【注意】

当該年度(教育, 社会活動, 大学運営は平成26年度と27年度, 研究は平成24年度から28年度の5年間)の全ての業績を申告してください。

ただし, 科研費申請は平成29年度科学研究費助成事業(平成28年度申請分), SOAR(平成28年度業績分まで)更新は平成29年9月30日までとします。

科研費申請済, 継続及び資格停止申請済は, 枠内に「1」を, ない場合は「0」を入力 SOAR(平成28年度業績分)更新済は, 枠内に「1」を, ない場合は「0」を入力

I: 教育 対象期間: H27年度~H28年度(2015年4月~2017年3月)

審査項目	学士 or 修士 or 博士	前期 or 後期 or 通年	授業分担割合 (~1)	授業科目名	コマ数	自己算定点	審査委員会チェック欄	審査委員会査定点	
H27年度授業科目									
H28年度授業科目									
H27年度授業以外の教育実績	教育活動内容	貢献度 大・普通・小	担当教員数	活動期間・時間等 (and/or 対象学生数)	自己申告点	審査委員会チェック欄	審査委員会査定点		
			人						
H28年度授業以外の教育実績	教育活動内容	貢献度 大・普通・小	担当教員数	活動期間・時間等 (and/or 対象学生数)	自己申告点	審査委員会チェック欄	審査委員会査定点		
			人						
教育の質-目標達成事項 H27年度からH28年度にかけて, 大学院, 学部, 全学教育の教育目標を実現するために, 各授業科目につき, どのような努力を行い, どのような成果を挙げることができたか, 下記(A)~(C)のうち成果を挙げたものを3授業科目挙げ, それぞれの授業ごとに証拠に基づいて述べ, そのために取り組んだ授業実践を記述する。 (A)授業に対する学生の授業参加度(出席・遅刻・早退などの改善, 居眠り・私語・内職などの改善, 集中力・発言・グループワーク参加などの向上, 予習・復習の増加, 課題提出率の向上など) (B)一学期の授業の結果としての学生の知識・思考・技術の深まりや修得の程度(レポートの質の向上, 成績の上昇, 単位取得率の上昇(=途中放棄率の減少)など) (C)学生の満足度(授業アンケート結果, それ以外の学生からのフィードバックなど)	担当科目名	受講者数	目標達成項目	取り組んだ授業実践の内容			自己算定点	審査委員会チェック欄	審査委員会査定点
			(A)授業参加度						
			(B)修得の程度						
			(C)満足度						
教育の質-FD項目 H27年度からH28年度にかけて, 大学院, 学部, 全学教育の授業改善を達成するために, どのような努力を行い, どのような成果を挙げることができたか(ピアレビュー等の活動内容は日時・参加人数等をできるだけ明確に記述すること。 (A)学内・学外のFD活動への参加, 企画・運営 (B)教育関係の学会などへの参加・発表 (C)ピアレビュー(レビューワーとレビューイー双方が参加する①事前打ち合わせ, ②授業レビュー, ③事後フィードバック・省察を含む) (D)その他(個人的なコンサルテーション申し込み, 関係図書の参照, 同僚との懇談など) 《上限10点》	左記(A)~(D)のFD項目	場所・日時や期間	具体的な取り組み内容			自己算定点	審査委員会チェック欄	審査委員会査定点	
教育の質-その他参考特記事項 《上限22点》									
教育分野						計	0.00		0.00

Ⅲ:社会活動 対象期間: H27年度～H28年度(2015年4月～2017年3月)

審査項目	学会等名	国際の場合 は「 <u>際</u> 」,国内 の場合は「 <u>内</u> 」と 記す	役職名	役職就任期間	対象期間 就任月数	自己算 定点	審査委員会 チェック欄	審査委員会 査定点
学会等	学会運営活動(学会長・代表)							
	学会運営活動(その他役員)							
	学会運営活動(学会誌編集委員)							
	学会運営活動(大会実行委員長)							
	学会運営活動(大会実行委員)							
	地方部会・研究会運営活動(部 会長・代表)							
	地方部会・研究会運営活動(そ の他役員)							
	地方部会・研究会運営活動(会 誌等編集委員)							
	地方部会・研究会運営活動(大 会実行委員長)							
	地方部会・研究会運営活動(大 会実行委員)							
政府等審議会等	審議会等名		役職名	役職就任期間	対象期間 就任月数	自己算 定点	審査委員会 チェック欄	審査委員会 査定点
	中央行政機関審議会(会長)							
	中央行政機関審議会(委員)							
	都道府県行政機関審議会(会 長)							
	都道府県行政機関審議会(委 員)							
	市町村行政機関審議会(会長)							
	市町村行政機関審議会(委員)							
大学外の公的試験の出題・採点・面接等の考試委員の業務 ※大学入試センター教科科目第一委員会、司法試験委員その他これに準ずる者の委員名の秘匿期間を経過した直後の年度で、その業務活動を算定する。	活動内容			活動時期	活動量 (大・普通・小)	自己申告点	審査委員会 チェック欄	審査委員会 査定点
省庁等が公募する特別な事業(JSTからの事業公募の審査、科学研究費補助金)の考試委員の業務 ※委員名の秘匿期間を経過した直後の年度で、その業務活動を算定する。	活動内容			活動時期	活動量 (大・普通・小)	自己申告点	審査委員会 チェック欄	審査委員会 査定点
地域連携・産学官連携	連携活動内容			活動時期	活動量 (大・普通・小)	自己申告点	審査委員会 チェック欄	審査委員会 査定点
地域連携・産学官連携に伴う講演・講義等(出前講座等)	講演・講義題目等			時期	活動量 (大・普通・小)	自己申告点	審査委員会 チェック欄	審査委員会 査定点
国際交流活動	活動内容			活動時期	活動量 (大・普通・小)	自己申告点	審査委員会 チェック欄	審査委員会 査定点
その他社会活動	種別	活動内容		活動時期	活動量 (大・普通・小)	自己申告点	審査委員会 チェック欄	審査委員会 査定点
					社会活動分野	計	0.00	0.00

Ⅳ:大学運営 対象期間: H27年度～H28年度(2015年4月～2017年3月)

審査項目	役職名	就任期間	対象期間 就任月数	自己申告点	審査委員会 チェック欄	審査委員会 査定点		
役職等								
全学委員会	委員会等名	委員長、委員等種別	就任期間	対象期間 就任月数	活動量 (大・普通・小)	自己申告点	審査委員会 チェック欄	審査委員会 査定点
センター内委員会	委員会等名	委員長、委員等種別	就任期間	対象期間 就任月数	活動量 (大・普通・小)	自己申告点	審査委員会 チェック欄	審査委員会 査定点
センター規程に掲げられている業務に関し、I(教育)からIII(社会貢献)の分野で直接評価できない業務について、その取組状況及び成果を自己申告(具体的成果を客観的に記述してください。)								
					大学運営分野	計	0.00	0.00

	教育	研究	社会活動	大学運営	科研費申請	SOAR	部局長調整	計
審査点(加重前)	0.0	0.0	0.0	0.0	G13確認	O13確認	—	0.0
審査点(加重後)					G13確認	O13確認		0.0